

大規模地下街等における浸水対策の取組について

- 東京都地下街等浸水対策協議会は、全12地区で約300に上る施設管理者、学識経験者や行政により構成(図1)
- 出水期に備え、全12地区において4~5月に部会を開催。また、5月以降に情報伝達訓練や実働訓練を実施
- 都政等の最新動向の共有を目的として、各部会の代表団体等により構成される幹事会を6月に開催
- 構成員の協力のもと、7~10月にデジタルサイネージ等により「地下街等の浸水避難を支援する映像」を上映(QRコード参照)
- 施設管理者をまたいだ避難誘導の円滑化や利用者視点の取り込みによる避難誘導の実効性向上を目的として、7月に新橋地区と有楽町地区において小学生の親子を対象とした避難訓練イベントを開催(写真1、2)
- 平成31(令和元)年度から順次進めてきた「避難経路の精査」の取組について、11月に八重洲地区において実施(全12地区すべての地区で完了)
- 2008年に策定された「東京都地下空間浸水対策ガイドライン」の改定(令和7年度夏頃公表予定)



「もしもの事態に心の備えを 地下への浸水 知って、防いで、命を守る」
全体編



「もしもの事態に心の備えを 地下への浸水 知って、防いで、命を守る」
避難行動編

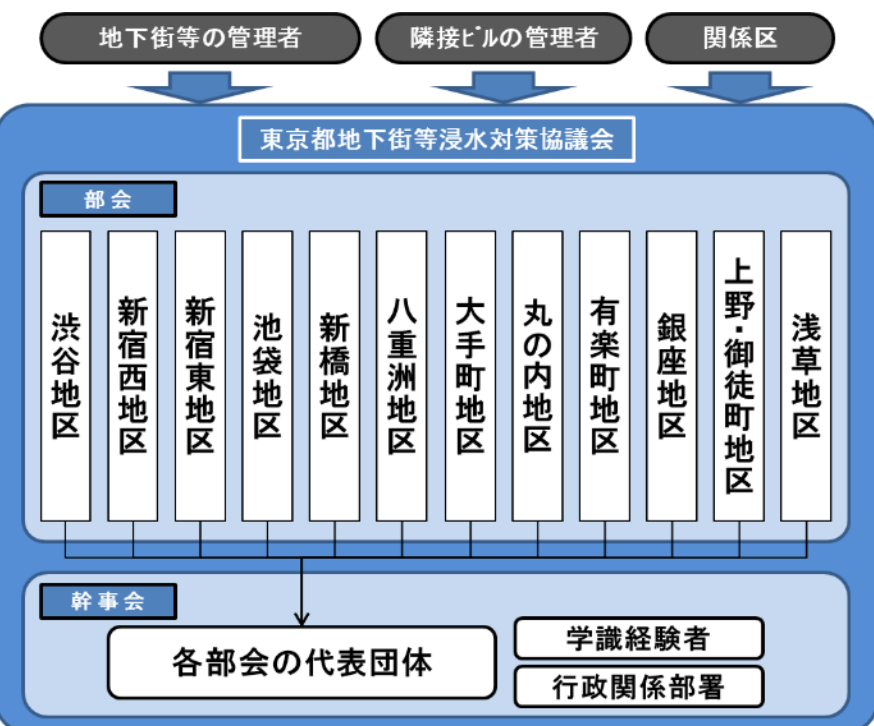


写真1 座学の様子 (新橋地区)



写真2 土のうづくり訓練 (有楽町地区)

図1 東京都地下街等浸水対策協議会の組織

⇒ 令和7年度以降も、これらの取組を深化させ、浸水被害に課題のある大規模地下街等の浸水対策を加速